



群馬県立館林高等学校
同窓会会報

3年に1度の文化祭!! (13.6.16~17)

館林高校創立80周年 (2画)
にあり

八十周年記念事業
ご協力に感謝申し
上げます



理事長 岩山 繁寿

同窓生の皆様にはお元気で、それぞれのお立場でご活躍をいただいております。心から感謝とお慶びを申し上げます。同窓生の皆様は母校館林高校創立八十周年の記念事業の賛成をお願い申し上げます。

同窓会会報三号
発刊に寄せて



校長 永島 武

同窓会会員の皆様にはご健勝にて、それぞれのご分野で活躍のことと拝察いたしております。なお、平成十三年度に入り同窓生の皆様には、八十周年記念事業にかかわる諸準備のために大変お世話になっております。また、七月七日の職業別進路講演会では同窓生十四名の講師による講演や、

経済社会状況が厳しい折にもかかわらず、母校への限りない愛着とご厚情により貴重なご寄附をいただき初期の目標が達成できましたことに対し心から感謝とお礼を申し上げます。教育用品については在校生がスポーツ文化活動に有効に活用できるフットボール三台を購入、その他音楽用品を購入いたしました。皆様のご意志を生かしていただくようお願いすると同時に、ご活躍を心からご期待申し上げます。

又、創立八十周年の記念事業として記念誌の刊行を計画いたしました。編集委員に園沢先生を始め母校でご指導いただいた諸先生に編纂をお願い申し上げます。ご多忙のところを先生方には懸命に取りくんでいただき立派な記念誌の刊行の運びとなりましたことに対し、心からそのご労苦に感謝申し上げます。

部活動等では日ごころより、格別なるご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

本年度同窓会関係の主な諸事業として、九月八日に第五十四回全国高校決勝大会、十月二十日に館林高校創立八十周年記念式典、十一月十日には館林高校同窓会総会が行われます。多くの同窓生のご参加をお願いいたします。

さて、平成十三年度「社会で活躍する人づくり」をめざす館林高校の教育プラン」を昨年度に引き続いて策定いたしました。その内容は、第一に「学力向上プログラム」ですが、授業・補習授業・課外授業で、能力を引き出す授業の展開です。第二に「自己探しプログラム」ですが、学習ノート・全国弁論大会・部活動・五十キロ強歩等とおして、社会に目を開き、自分を見つめる目的を持って自習を励ましていきます。第三に、「進路・専門探しプログラム」ですが、職業別職業探しプログラムとして、職業別

謝申し上げます。

又記念誌にそれぞれのお立場で思い出や高校時代における苦勞話などの貴重な原稿をお寄せ下された皆様に感謝とお礼を申し上げます。現在の館林高校は、同窓生の各分野における活躍と相まって母校館林高校は充実いたし立派に成長して居ることは先生方のご努力と生徒自身が館高に誇りと自信をもって精進して居る結果だと感じます。これからも同窓生皆様の母校へのご厚情と皆様の益々のご活躍とご健康であることを心から祈念申し上げますと同時に館林高校が八十周年を機に更なる発展することを心から願ひ同窓生の絆がより強く広められて行くよう急ぎつつあいたつとさせていただきます。

進路講演会・職業研究企業訪問、専門探しプログラムとして、学部学科別進路講演会・学科及び授業体験、そして、学年別進路講演会を通して、将来の職業や専門を見つけ個性を伸ばすことです。以上のことから、社会に目を開き、自己を知り、自分の考えを生み出し、将来の職業や専門分野を見つけ、目標をもって、それに向かつて力をつけるのがプランの目標です。

次に、学校行事では、四月二十七日の五十キロ強歩大会、五月には多くの運動部活動の活躍と一年生が整然と入場行進した高校総体、六月十六・十七日の大成祭、六月下旬には生徒会新役員誕生等の全ての行事が順調なうちに一学期の終業式を迎えることができずことをお礼申し上げます。

終わりに、会員各位のご健勝と同窓会のみずますの発展をお祈りいたします。



~~~~~ 同窓生の募金協力に感謝！そして感謝！~~~~~  
**創立80周年記念事業の教育助成として**

**10人乗りワゴン車3台および  
吹奏楽の楽器11点を学校に贈呈**



◀〔編輯委員会〕  
 創立八十周年記念事業の募金活動を昨年十月から開始し、今年七月末で締め切りしました。経済情勢が大変厳しい中にもかかわらず大勢の方々からご寄付をいただき、おかげで十人乗りワゴン車三台と吹奏楽の楽器十一点を購入するという当初の目的を達成することができました。ご協力に心から感謝申し上げます。  
 募金状況  
 募金者 八一七人  
 募金総額 九、七〇九、〇〇〇円  
 早速、この募金を使ってワゴン車三台を購入し、部活動に大いに役立てています。生



▶〔編輯委員会〕  
 徒も職員もこの思いがけない素晴らしい贈り物に報いるべく猛暑の中で頑張って部活動を行っております。  
 また、今まで欲しがっていた新品の楽器を手に入ることができて練習に助んでいる吹奏楽部員も、コンクールやコンサートを目指して、あるいは野球の応援にと情熱を燃やしています。  
 このように、募金が教育助成として大いに役立っていることを報告いたします。  
 なお、寄附者芳名簿は、記念事業終了後に決算報告と共に作成する予定です。

創立80周年記念式典  
 祝賀会  
 記念講演

10月20日(土) 午前10時から館林高校体育館にて  
 午後1時30分からグローバルアイ羽衣にて  
 10月22日(月) 午後1時30分から館林高校体育館にて  
 講師 前原章宏氏(株)とりせん社長29.3卒)

まもなく刊行  
 『館林高校八十年誌』  
 校史編集係 小堀重彦

創立八十周年記念事業の一つとして記念誌を発行することになり、昨年七月に旧職員の奥沢義一先生を委員長とする校史編集委員会が組織され、順調に作業が進行しております。  
 『館林高校八十年誌—沿革と回顧—』というタイトルの今回の記念誌の目玉は、約二百名に及ぶ卒業生ならびに旧職員の方々による本校の思い出集です。ご協力いただきます。昨年より原稿依頼を開始させていたいただいており、一部の方にはお待たせした形になっておりますことをおわびいたします。  
 記念式典の行われる十月二十日に発行できるよう準備してまいりますので、どうぞご期待ください。ご希望の方には有償にてお分けいたしますが、原稿執筆をしていただきました方々ならびに二万円以上のご寄附を頂戴いたしました方々には贈呈させていただきます。

# 支部活動

## 〔東京同窓会の近況〕

会長 鈴木 敏男

第二十回総会が来る十月十九日(上野)精養軒で催される予定であるが、その打ち合わせと会員増強、新名簿作成等につき、初めての試みであるが、経済的にも厳しい時なので結束してこれを耐え凌ぐ意味も含めて慶形船による家族同伴の理事・役員会(ゴルフ部会員他一般有志も交えて)を八月二十二日夕隅田川で行う予定である。

つい先達でも、高崎高校、流川女子高の60/40周年の東京同窓会に招かれて数名で出席し、館林東京同窓会ここにありを覚えて来た。時代性と言うか異国の東京同窓会にも交流を積極的に望む流れがあり、役員幹部のみならず一般会員共々接触を図るべく工夫中であり、本校に定着したゴルフの会同種下各同窓会、群馬県人連合会との輪も再びこれと繋がっている。櫻の頃には同窓の谷津農水大臣(元)も交えての花見も、据三ユージック演奏を加えて千鳥が湖農水別館で盛大に開かれ、「たむら・たむら」や校歌を皆で唄を組んで合唱した。これからも種々懇親の場を設ける事を更に考慮しながら会の充実、活性化をより図るべく鋭意努力中である。

## 〔明和支部発会に寄せて〕

支部長 吉永五三次

かねてより願望の強かった支部の結成を、遅ればせながら発会する事が出来た。この一層、町内在住会員同志の親睦の連携により、友和、絆、親

睦等がはかられるものと確信致します。当支部発会に向けて有志三名の発起人を設定(平成13年三月)、他支部の会則等を参考にしながら何回か会合を持ち準備を進め「十月二十六日」結成準備委員会(十六名)を開催し発会式に向けての案を検討した結果、満場一致で了承され「十一月二十三日」五〇余名の会員の参加を得て発会式を開催する事が出来ました。これも一重に発起人、準備委員の方々の積極的な努力によるためと深く感謝申し上げます。以後八月も経過しました。その間他支部の新年会、総会等にも招待され、本部役員会等にも出席させていただきました。どうか仲間入りをする事が出来たら、今後の活動方針と致します。第一回です。会員の皆様方のご出席をお願い申し上げます。今後共々会員の皆様のご協力とご指導をいたさなければならぬ。たくさんの方が参加出来るような行事等を計画したいと思っておりますのでより一層のご指導と、ご意見等をお聞かせ願えれば有難いと思っております。尚本会発会に当り顧問の斉藤町長には、御多忙の折、何かと御指導、激励等を賜り、有り難く感謝申し上げます。最後になりましたが、会員一同の益々の健康を御祈念申し上げ発会の報告と致します。

連絡先 ○二七六-八四一-二九五  
会長 吉永五三次  
事務局長 関口 久

## 〔会報刊行・会員制導入(大泉)〕

館泉会会長 河内 初光

館泉会もその後、順調に推移しております。これも偏に、先輩の諸々様を始め関係者各位の多大なご協力、ご尽力の賜物でございます。今年度は、心より厚くお礼申し上げます。今年度は、母校創立八十周年・館泉会(大泉支部)発足四十周年・新世紀・新千年紀のスタートというところで、更なる発展を願い、「館泉会会報刊行号」を発行いたしました。また、総会で、会則を一部改正し、会

員制を設けましたが(年会費千円)、当方より多くの方々に入会して頂き、その後も引き続き入会して頂いております。このことは、ご同慶の至りです。館泉会の主な事業は、総会、懇親会、各支部交流会、競輪、ゴルフ会、役員会、名簿発行、会報発行、歴史と文化の研修会などです。今後共、幹事一同「楽しい場作り」に努めますので、よろしくご指導、ご鞭撻下さい。諸々様の益々のご健康をお祈りいたします。なお、会報刊行号が若干部数残っておりますので、ご希望の方はお申し付け下さい。以上

## 〔板倉支部〕

支部長 荻野 次雄

二十一世紀を迎え、当支部も創立二十一年目を迎えました。また名称を「板倉会」から「板倉支部」に変更してから一年が経過しました。二十一世紀に相応しい新しい行事活動を模索して、今年度は総会の開催が遅れておりますが、支部会員の皆様にはよいお知恵がありましたら、拝借したいと考えています。

近々総会のご案内をさせていただきます。予定になっておりますので、その節には、万障差し繰り合わせの上、ご出席くださるようお願いいたします。

連絡先 ○二七六-八二一-三三三  
小野田裕司郎

## 〔千代田支部の活動〕

支部長 武井 章良

当支部は武井章良支部長を中心に、本部副会長に山川博氏を出し、500名余の会員とともに精力的に活動しております。

毎年8月にランドゴルフ大会を開催しております。以前はゴルフ大会も実施していましたが、参加者不足のため中止しました。目的は会員相互の親睦を深め、日常の交際に役立てることにしていきます。また、より親睦を深めるため、総会に続いて親睦会を開催し

ております。その際、本部同窓会長、母校館林高校校長、事務局長及び近隣支部長等を招待して、横の連絡を密にしています。高校時代を懐かしみそして明日の活力を生むための会員の皆様と一夜を楽しく過ごしています。

ランドゴルフ大会(8月27日) 東部運動公園 参加数 約30名  
総会(懇親会)(8月27日) 新田家 参加数 約40名  
いつも和気あいあいのうちにすべての行事が進行し、楽しい一日を過ごしてまいりました。一人でも多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

支部長 武井章良(瀬戸井)  
本部副会長 山川 博(赤岩)  
役員 関口誠一(豊野) 今泉浩一(新堀寺) 清水秀次郎(木崎) 栗原節男(天神原) 川島一晃(赤岩) 内田矩実(下中原) 川島清久(瀬戸井)

## 〔太田新田支部〕

支部長 潮山 昭一

本年は、母校創立八十周年、二十一世紀を迎えて、最初の大きな節目の年でありました。

太田新田支部でも、この際、支部長以下役員改選を行う予定となっておりますが、人心一新の上新世紀の同窓会発展に向けて、鋭意、努力して参る所存でございます。現状では、残念ながら、同窓会参加に積極的な年代層は、当支部の会員では、少数派であります。

幸いに、本部同窓会の活性化に伴い、同窓会参加者が徐々に若返って来ている事が、当支部にとっても、多数派の年代層に影響を及ぼし、参加者の増加が期待されます。「継続は力なり」を目標に、益々の発展を目指し、役員一同、頑強に参る所存であります。

太田新田支部会員(含教家)の皆様は、是非左記事務局へ、「ご一報下さい」。

連絡先 ○二七六-四四一-七二二  
岩松清市

## 〔同窓会「ゴルフコンペ」〕

地元主催第二回 百十一名参加で大盛況

五月九日の五月九日、地元板倉ゴルフ場に館林同窓会百十一名が集い、盛大にゴルフコンペが催された。この大会は東京同窓会が例年やっていたコンペを、地元主催にして二回目のコンペで、一回目が八十一名の参加、今回は何と百十一名の参加をみた。館林前校長も元気はつらつ参加されておられた。

なお、パーティには若原同窓会長、永島校長も駆けつけ、例年になく素晴らしいコースの話などで、和気あいあい楽しいひとときを過ごされた。

優勝は、新ペリアで大塚光雄氏 第二位 河内初光氏 第三位 小久保清氏等がそれぞれ受賞し、ベストショットは、優勝者若原若良氏、第二位 荒井昭氏、第三位 小久保清氏等が同様に受賞した。

来年も、十四年五月八日(水)板倉ゴルフ場で、地元同窓会が世話人となり開催することが確認された。百五十名以上の参加があれば、ゴルフ場を借り切つて開催ができるようなので、廣くご参加を各支部長にお申し込み下さい。



コンペの後の表彰式とパーティで寛ぐ同窓生

# 館高Then

## 大先輩登場



### 「きすな」 第九回卒

近藤 勝三郎

将に鳥先勿々、卒業して六十余年となる。その間、多感な中学時代を伴にした同級生と、それに繋がる先輩後輩とは社会生活の中でその折々に心の寄り処として重要な意義を持ったと自覚している。戦中、戦後の混乱のうねりが鎮静した昭和三十年に「館九会」という名称で同級会を再発足させ定期的に旧交を温める会合を催して来た。昭和五十五年には戦死者九名を含む二十五名の亡き友の慰霊祭を行うなど学友との契りを大切にしていた。平成初年の会合を最後に会費の激減を惜みつつ自然消滅している。

一方、同窓会との係わりについては、残念乍ら社会生活に没頭して省みる余裕がなく永い間徒過した。

昭和五十六年母校の創立六十周年記念祝賀会が催され、その期に行事の一環として東京都に同窓会を創設する案が取り上げられた。当時東京都内で活躍する同窓生は大旨一、五〇〇名と推計され開校六十年を経た時点で同窓会が存在しない不自然さを解消するため急きょ巨上に集められた。

その司令塔は、本校同窓会長廣澤純孝先生、学校長野木村浩先生であり推進役として第二十二回卒業生宇佐美茂氏であった。当時、私立学校法人の理事という接点を共有していた同氏の推挙で創立の懇請を受け年内の創設を目的に行動することとなった。

期間の制限もあり綿密な計画と実施が要求されるに對抗可能

な実行部体の結成が急がれた。幸なる哉、在京卒業生の第二回生から第二十五回生まで広範にわたる人材を得て稼働することができた。何れも母校発展の基盤となる同窓会創設に希望と意欲を保有する精神と行動力を兼ね備えた持主の集合体で画撃に対応した。

昭和五十六年十一月、東京都新宿の東京大飯店で創立総会が催され一三〇名の出席を得て目標度創設の運びとなった。準備段階から参画者ということもあって予期しない会長役を引受ける羽目となり同窓会運営の重要さを体感した。本年は創立二十周年になる。歴代会長と会員の協力によって立派に存続していることは誠に慶ばしい。

同窓会の存在価値は世の利害得失とは無縁で、人間が社会生活を送る上で可能な限り多くの人と良い人間関係を保有することが必要である限り人と人との繋がりの尊さは何人も否定できないもので、同窓という絆を大切に培養して人間関係を形成することは賢明な選択であると思う。時には力として、心の寄り所として大きく寄り添ってくれる無限の財産として、大切にしたい。

この春、四月四日皇居のお濠をめぐり千鳥が淵で谷津義男大臣の講入りを観覧会が催された。参加四十名を数え、早春の一夜を歓談して心の洗濯をした。得難い人生の一瞥である。同窓の溜みの有難さを感じしみと感ずる会合であった。同窓会の益々の発展を希求するや切である。

## 恩師登場



### 「館林高校と私」

半田 雅男

群馬県立館林高等学校と書いてみる。昭和二十六年から三十七年まで勤めた学校である。新卒の国語教師であった。初年度の考査に「新古今集の成立について述べよ」とこんな設問をして採点に大いに苦労した。隣の先生はアチーブとやらの方式でいとも楽々と採点をしていた。

何につけても新米教師だったが、やがて授業の要領も覚え、校務の実際にも慣れて、少しは教師らしく振る舞えるようになっていた。新聞部顧問、万葉植物園の造成、応援歌の作詞、新校歌の制定に関

わったことなどが鮮やかに思い出される。

右手に時計をしていた先生、教科書を風呂敷に包んで教室に入ってきた先生、と私の思い出を話してくれた番での生徒も、今は定年になって自適を楽しんでいるという。

新任の年に学年が一緒だった三人の先生は疾うに鬼籍に入られた。国語科の中の三人の先生は私の恩師であった。その先生もまた他界されている。当時の職員室には恩師に当たる先生が八人ほどおられた。私は母校に勤めたのである。しかし、館林高校は、私

にはどうしても勤務校だった懐かしさが先に立つ。

今度は群馬県立館林中学校とこう呼んでみる。すると、私の母校だという実感が湧いてくる。入学の年の十二月に大平洋戦争が勃発した。

敵国語と言はれし英語学びたる中学の日の英和辞書あり

雅男

海軍の兵たらむとて写したる半裸の写真獲せて顔見ゆ

後年の作ながら、この腰折れ歌に偽りのない時代の中学生だった。決戦非常教育体制下に学んだ私たちには「四年卒業」という括弧書きの履歴

がついている。思えば五十年余りの茫茫たる往時の母校が甦ってくる。

さて、私はここ十年ほど、「館林市教育史」刊行事業に与して、市域の中等教育就中、母校の項を分担執筆という傍目のお付き合いをしていた。そしてただ今は「母校八十年誌」の編纂に取り組みながら、またまた学校の全容を眺める憧憬に恵まれている。このご縁で在学、勤務校、校史の三つの館林高校が私にはにわかにならなっている。有り難いことである。

## OB通信

## ▶十五名のOBの皆さん



## ●十五名のOBが一日講師

今年も将来の職業観を育てる「職業別進路講演会」が七月七日(土)の三限、四限を使って開催された。一昨年は十二名、昨年は十四名、今年は十五名と年々OBの参加協力者も増え、職業分野も多岐にわたり充実してきている。

これは、一・二年生全員に最も感心のある二つの職業の話を通じて、研究成果をレポートさせる職業研究指導の一環で、講師は十五名全員が各職種的第一線で活躍しているOBの皆さんです。各職種の仕事内容、面白さや大変さ、就職するには等、後輩に熱っぽく語りかけていた。

この行事は文部科学省の言う、「生徒に生きる力を」とも呼ばれており、先輩たちの話を聞きながら、生徒は「自分にとって働くとはどういうことか」、「今後の進路をどうすべきか」、等を考える良い機会になったと思おう。

## ◀一日講師のようす



## ●募金活動で感謝し

「観戦していると、自分たちがプレーしている気持ちになる」、県営敷島球場のスタンドで、その語り合うのは、館林市の小嶋泰男さん(69)と千代田町の増田浩さん(69)。一九五〇年度卒業の館林の野球部OBで、小嶋さんは一塁手、増田さんは捕手として、旧制中学から新制高校までの五年間、ともに野球に打ち込んだ。

二人は、観戦しながら自分たちの野球少年時代を振り返っていた。当時は戦争が終わって間もない時代。道具すら満足にそ

ろわず、体格も今と比べれば格段劣っていた。手縫いの球を使い、チームにバットは一本だけだった。「バットが折れるのを心配して、内角の球は打つことができなかった。」(増田さん)という。しかし、二人は「監督の指導下で、九人の選手が一つになり、勝負にかける。その野球から教えられたのは計り知れない」と話す。

現在、館高の野球部OB会長を務める小嶋さん、「より良い環境で野球をしてみたい」と、寄付金を募る活動をしている。「野球に対する私たちの恩返しです」。その言葉は、野球を愛する人たちの深さを教えてくれた。一読光新聞七月二十六日号に掲載、「コラム「球情」から引用」(小嶋浩徳記者)

## ●昭和六年三月卒業生「碌々会」が学校に寄付

去る七月十日、昭和六年三月卒業の坂本公正さんと小森谷義一さんが学校を訪れ、同級生で作る「碌々会」を会員の高齢化を理由に残念ではあるが、解散することになった。ついでには会の運営資金の残金を後輩のために使ってほしいとお願いとおっしゃって寄付された。学校では有り難く頂戴し、生徒のために各教室の時計を購入する予定で検討している。

なお、「碌々会」の貴重な資料も委託されたので大成会館(同窓会館)に保管して、生徒の便に供することになった。

## ◀「碌々会」の皆さん

(後列左から) 小嶋浩徳さん、小森谷義一さん、木村純夫さん(前列左から) 國谷雄三郎さん、石塚勝三郎さん、坂本公正さん



## ●八十五キロ競歩を四年連続完歩

岩舟町に在住の大藤卓郎氏(昭和十七年三月卒業(第十七回卒))は栃木県立大田原高校の一大年間行事、八十五キロ競歩大会に連続四年出場し、いずれも完歩という偉業を成し遂げた。

今年の五月二十日(木)午前十時～二十一日(金)午前十一時三十分(雨天中止)で実施されたもので、年齢のことを考えれば、すばらしいといえるが、本日の競歩大会に氏から寄せられた私信により初めて明らかにな

れたもので、校長先生を始め、これを聞いた本校関係者はすべて、氏の「精神力」、「忍耐力」、「限界に挑戦する」という言葉に「対して惜しみない拍手を送った」。

大田原高校からは氏に対して毎年八十五キロ競歩大会の特別招待状が届くらしく、氏が歩くことで、大田原高校の生徒たちにも特別な励みになるようだ。また、氏はテレビ(NHKのローカルニュース)にも取り上げられた。

先日、本校にお見えになった際にそのときのお話を詳しくお聞きできた。

氏は十七回卒ということで、正田文男前同窓会長と同期であり、何年前かの同級会で故正田前会長に会い、「中学時代のあのスポーツマンも足を悪くされ、だいぶ弱ってきているなあ」と心配していたとおっしゃっていた。

氏はまた、冊子もお作りになり、来校の際に持参された。タイトルは「大高第十四回、八十五キロ競歩を顧みて」というもので、八十五キロ競歩を歩きながら自分の中学時代を回想するといった形式をとっている。聞いて懐かしく思われる方もいらっしゃると思うが、「当時の英語教諭の黒崎澄雄先生」とか、「時代を反映してか軍国主義の塊M校長(本人井)」という行もでてきて大変おもしろいし、貴重な冊子である。

## 館高Now



●三年に一度の文化祭大成功●  
六月一日(日)ー七日(日)にかけて、母校文化祭(大成祭)が開催された。同日とも絶好の天気にも恵まれ、来校者の出足も上々だった。  
本校では、体育的行事と文化祭を交互に行っているが、今年は文化祭の年



▲今年はなぜか、女子高生が多かった

●強歩大会●  
「50キロ強歩大会で誰(おのこ)の息地を見せた」  
第二十二回五十キロ強歩大会が、四月二十八日(日)午前六時三十分、参加者七百名と一般参加者十二名が水島新校長先生のピストルの合図で、渡段瀬川河川敷を勢いよくスタートした。快晴で四月としては珍しく、気温二十七度の夏日になったにもかかわらず、完歩率は昨年と同じ九十三%であった。  
このコースは、渡段瀬川を下り、利根川と渡段瀬川との合流点を経て利根川を上り、利根大塚から学校へ向かう全長五十二キロである。今年最初にゴールしたのは三年生で、昨年も三位



の佐藤君で十一時十分(に)学校へ到着した。夕方五時半頃までには歩いた生徒全員がゴールした。  
この行事は、この限界に挑戦する行事で、完歩したときの成就感を味わうために足をまめだらけにして、悲壮な面持ちでゴールする生徒もいる。苦しいことは大嫌いといる若者が多い中、この行事が彼らに与えるものは自信、勇氣、忍耐、あるいはそれ以上のものかもしれない。PTAから今年も三百人以上の応援協力を得て暑い一日は終わった。  
一般参加者も数回しているのが、同窓生の方も一度は経験してほしいかがでしよう。

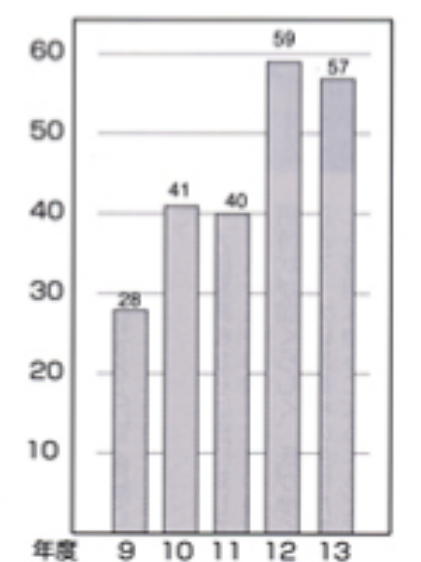
で、テーマ「革命」、サブスローガン「感情復活」を掲げて考えだした。今年で三八回目を向かえ、過去四回ばかり経験し、その間の生徒の様変わりをつぶさに観てきたわけだが、生徒の様子は、若干軟弱になってきたといふことを除けば、基本的には変わっていないように思われる。  
いすれにせよ、コンサートあり、売店あり、演劇あり、コントありで、生徒は互いに楽しみながらこの二日間を過ごした。来校者数も前年を大幅にアップして二百四十名にも及んだ。

●二〇〇二年度から学級減●  
同窓会委員会は平成一四年度から少子化のために、伝統校を始め、各校の学級減を発表した。近隣の伝統校では、本田が定員三三〇名から二八〇名に、館林が二八〇名から二四〇名にそれぞれ減となる見込み。従って一学年七クラスから六クラスになる計算だ。  
本校も、昭和六十一年には一学年、三六〇名定員(一クラス四五名計算で八クラス)、という時代もあったが、平成七年には、一クラス四〇名で七クラスすすなわち、一学年二八〇名定員で現在に至っている。

時代の波か。そういえば館林市のいろいろな町内で子供が激減しているようだ。町内によっては、あれだけ盛んだった少年野球チームすら崩壊し、聞く、これだけ子供が減少して、はたして日本の将来はどうなってしまうのだろうか。  
それにしても思い起こされるのがこの物だ。  
写とけて  
村いっばいの  
子供かな  
小林 一華

## 上昇する現役 国公立大学合格者

過去5年間の現役国公立大学合格者の推移



- 十三年度合格状況(現役のみ)
- 〔国立大〕(57名)  
群馬大15、筑波大1、埼玉大4、東京学芸大1、山形大3、茨城大5、宇都宮大3、横浜国大1、新潟大1、北教大1、秋田大1、滋賀大1、神戸商船大1、鳥根大4、山口大1、琉球大1、高崎経済大7、前橋工大1、都立科技大1、他4
- 〔私立大〕(49名)  
早稲田大2、立教大1、青山学院大2、明治大2、中央大5、法政大9、東京理科大学5、日本大26、芝浦工大7、獨協大21、東洋大18、明沢大15、専修大16、大東文化大17、東京電気大9、東海大29、他25

## 進路状況

館高の進路実績は右肩上がりで躍進を続け、グラフのとおり去年は現役国公立大学合格者数がついに五〇人の大台に乗ったが、今年もほぼ同数を実現。健闘している。こういう先輩の後ろ姿を見て在校生もよく努力しているのだ。今後さらに館高の飛躍は続きそうだ。現役大学進学達成率は八十七%で全国的に見ても

高いレベルである。私立大へも六大学等への合格者を増やしつつあり、早大、法政大、明治大、中央大、青学大等からも指定校推薦を受けるようになり、館高への評価はあがっている。

なお、卒業生二七一名の進路決定先は、国公立大五〇、私立大一六四、短大三、専修十八、就職四、浪人三三である。

## 部活動状況

今年度はレスリング部、陸上部、ボート部、水泳部、山岳部が関東大会の出場権を得た。また、インターハイの切符はレスリング部、ボート部が獲得した。同大会とも昨年度より出場する部数が少なくやや残念であるが、5月に行われた県高校総体の総合成績が15位と躍進したことからも全体的な部活動の底上げは図られていると思われる。

文化部関係は昨年と同様新聞部、井筒部が全国総合文化祭に出場したが、他の部も今年度開催された校内文化祭(大成祭)で各文化部が取り組んだ研究を発展させて同部に続いて欲しい。

インターハイ出場  
レスリング部

8/1~4の間、熊本県玉名市に於いて全国高校総体レスリング競技が開催される。

県新人を二位で通過し戦力アップのため苦戦が予想された現チームは、関東選抜を勝ち抜き、全国選抜ではベスト8に入った。「打倒・西尾案」を合言葉に、また、あくまでも全国で勝てるチームを目標に努力してきた。その結果、県総体、インターハイ予選で西尾案に雪辱し、念願のインターハイに出場できる喜びは格別

なものがある。チームの柱である30キロ級の米山が個人戦で優勝すること、団体戦で選抜以上の成績を勝ち取れるよう、精一杯頑張ってきた。

## ボート部

長年にわたって顧問として面倒を見て下さいました黒岩先生が退職されて、ボート部としては損失であると同時に非常に大事な年を迎えることになりました。部員は4名と少ないのですが、毎日練習に頑張っています。先日行われた関東大会に於いては、クオドルブルが第6位、シングルスカルの戸叶が第5位とまず

まずの成績を収めることが出来ました。自分たちでもやればできるんだと、生徒たちも一段と練習に熱が入ってきたようです。現時点では、関フ口が終わっていないので国体に出場できるかどうかは分かりませんが8月上旬に行われるインターハイでは日頃の練習の成果を発揮して、良い成績を残せる様に教師・生徒一丸となって頑張りたいと思います。

関東大会出場  
陸上部

平成十三年度関東高等学校陸上競技大会は、六月十五日から四日、栃木県宇都宮市の県立陸上競技場で行われました。本校からは、三年五組の斎藤雅俊君が大会三日目の男子やり投げに出場しました。

自己記録を高校総体で更新し、もともと持っている力も高い選手というところで、インターハイ出場権を得られる6位入賞を期待し、会場での彼の姿を見ていました。

一投めに惜しくもファールしてしまい、そこでリズムが狂ったのか、結局残りの二投め三投めも自己記録を更新することはできず残念な結果となってしまいました。

しかし、彼自身「納得の行く試合運び」ができたようで、その点では大きな収穫を得たと思います。

今回も残念ながらインターハイ出場はなりませんでしたが、日々努力している部員に期待したいと思えます。

## 山岳部

5月に行われた県の高校総体で6位に入賞し、来る十一月九日、十一

日、茨城県大子町で行われる関東登山大会に参加します。

現在、部員は十七名おり、熱心に日々トレーニングに励んでいます。夏休みには北アルプスの白馬岳への合宿を計画しています。地味な活動ですが、大自然に抱かれ、頂上に立った時の感動は言葉では表現できない素晴らしいものがあります。登山を通じて体力・精神力、そして豊かな心を培っていききたいと考えています。

## 水泳部

水泳部は六月に開催された群馬県予選会(競泳)において、個人四種目と、リレー二種目で関東大会への出場権を手にすることができました。三年生の小林直人君が50m及び100m自由形で、四位、三位、境俊哉君が200m自由形で四位、松岡正朗君が100m背泳ぎで四位、以上三名に合谷俊則君を加えた40m及び80mリレーで第三位に入り、学校対抗では総合五位という成績を修めました。

来たる七月二十二日より三日間、栃木県小山市で開催される関東大会に於いては、全国大会出場を目指して全力を尽くさずしたいと思えますので、応援の程、宜しくお願いします。

全国総合文化祭に向けて  
井筒部

高文祭井筒部門の参加を前に、八月五日、七日、福岡県久留米市を会場として第二十五回全国高等学校総合文化祭(第四十八回文部大臣旗全国高等学校井筒大会)が行われます。北海道から沖縄まで全国から五十五名の弁士が参加します。本校からは二年対比出場が楽しみです。

入賞できるようにがんばってきたいと思えます。



▲井筒大会の様子

## 新聞同好会

第25回全国高等学校総合文化祭(福岡大会)の新聞部門に群馬県を代表して二名(三年の坂本光樹、一年の須永康之)が出場した。この出場は昨年の静岡大会に続いて二度目のことで、「館高新聞」速報版の月三回の発行が評価されていることとなった。

八月三日から五日までの三日間、全国から94校が参加した新聞部の仲間と大宰府天満宮周辺の取材を含めて、交流新聞づくりに助んだ。この経験はこれからの発行に大いに活かされていくものと期待できる。

なお、出品した「館高新聞」は文化連盟賞を受賞した。今後とも、昭和24年に創部された新聞部の心意気を継承できればと思う。



## 館高Now

平成十三年  
同窓会本部役員

|                      |                   |                      |                      |                     |                      |                      |                      |                      |                      |                    |                      |                     |                  |              |             |              |              |               |
|----------------------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|---------------------|------------------|--------------|-------------|--------------|--------------|---------------|
| 名譽会長<br>廣澤 純孝 (十一年卒) | 顧問<br>渡辺利三郎 (三年卒) | 副会長<br>小嶋 泰男 (二十六年卒) | 副会長<br>宇治川福司 (二十七年卒) | 副会長<br>山川 博 (二十九年卒) | 副会長<br>岩崎 健典 (三十四年卒) | 副会長<br>河本 栄一 (三十六年卒) | 副会長<br>山崎 浩志 (三十八年卒) | 副会長<br>前山 秀樹 (三十七年卒) | 副会長<br>大隅 允雄 (三十八年卒) | 副会長<br>塩田 栄 (十八年卒) | 副会長<br>高木貞一郎 (二十七年卒) | 副会長<br>橋本 清 (四十一年卒) | 事務局(本校)<br>平田 一秀 | 事務局<br>増山 晏臣 | 事務局<br>関沢 浩 | 事務局<br>鈴木 康弘 | 事務局<br>斎藤 哲男 | 事務局<br>阿倍 志保里 |
|----------------------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------------|----------------------|---------------------|------------------|--------------|-------------|--------------|--------------|---------------|

## 一昨年の387名から昨年394名参加 今年も参加を！「館高同窓会総会親睦会」

18歳の自分と向き合い、18歳の頃の友人たちと、年に一度位、尽きない話をし、思い出を懐かしむのも良いもの。そしてあのころのパワーを呼び戻し奮い立ちましょう。！

日時：平成13年11月10日(土)午後5時～

会場：野鳥の森 福寿殿(館林市) TEL.0276-72-2801

(グローバルアイ羽衣から変更になりました)

一事前に参加券を購入のうえ、ご参加ください一

一昨年「行って良かった同窓会」を目指して構造改革した館高同窓会は皆様のご理解、ご協力のおかげで、ここ2年間で、なんと387名、394名の参加者を得て開催できた。会場いっぱいの同窓生からは、総会のスリム化、同級生は同一席でゆっくり話せるなど好評だった。「同窓生はみんな平等」の精神を引き継ぎ、今年も9月中旬から総会幹事より参加券が出回りますので、ご協力をお願いします。(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

遠方の方も懐かしい同窓生に会えますのでどうぞお出かけください。

### 事務局より

○情報提供を

学年同窓会やクラス会、部活O.D.会等が行われましたらその情報や写真等を送ってください。会報に掲載したいと思えます。

○会報購読希望の皆さん

来年度、同窓会報の郵送を希望する方は払込用紙により年会費一、〇〇〇円を納入して下さい。



▲(昨年の同窓会総会)

### 編集後記

◆ 新生同窓会会報の発行も3回を数えました。

◆ 今年本校は創立80周年を迎えます。そして今、本校はいろいろな面で勢いがついてきております。進路実績然り、部活動実績然り。それに呼応して館高同窓会も、総会・親睦会出席者数一昨年387名、昨年394名という数字が示しているように勢いがでて参りました。

◆ これも皆、会員の皆様のご協力、総会幹事の皆様のご努力の賜と深く感謝いたしております。

◆ 力強い言葉を述べる43年卒  
今年の代表幹事の皆さん



◆ また、80周年記念事業の募金につきましては、学校自動車(10人乗り)3台とクラスバンド部への楽器を、教育助成として、有り難く活用させていただきました。ここに、厚くお礼申し上げます。今母校は、古くなった校舎の全面改築を行っております。校舎が新しくなって、器と中身がそろったとき、本校の更なる発展が期待できるのではないのでしょうか。会員の皆様には今後の館林高校を見守っていただきたいと思えます。最後に、気候が不順ですので、会員の皆様には、ご自愛下さいませよう。 (記 平田)